

2022年
4月号
特集

向山氏の方法はなぜ効果があるのか

向山洋一の 「学級づくり黄金の3日間」 徹底解析

1 徹底解析 向山洋一の学級開始初日の指導の再現

授業：向山洋一（TOSS メディアより転載）

解説：長谷川博之 小嶋悠紀

2 学級のしくみを向山型でつくる

3 「黄金の3日間」で教える大切な【考え方・生き方】



イラスト：渡邊瑞穂

1 向山洋一氏の「出会いの指導」

新しく担任をする子供たちと出会った翌日。つまり「黄金の3日間」の2日目。その冒頭、担任として向山洋一氏が子供たちに、初めてまとまった話をする場面です。

その「文字おこし」があるのです。現在では「TOSSEメディア」ですべて読むことができます。

『黄金の3日間 3日で学級を構築する01』

・再現！ 向山学級の3日間「決定的瞬間の指導をそのまま再現」

(四一七ページ)

以下、向山氏の解説です。

1992年4月、初めて担任する子どもと出会いました。始業式が終了して校庭で10分間のあいさつ、持ち物の指示です。

翌日、2日目には担任の挨拶をして、クラスをつくり、授業を始めま

す。3日目から、もう普通の授業です。

この中で、最も大切なのは、2日目担任としての挨拶と話です。テープおこしをしてそのまま再現しました。

一九九二年四月ということは、雪谷小時代の五年生か六年生でしょうか。「桃花片」の子供たちではないかと思っています。

この「文字おこし」が初めて『教室ツウエイ』（明治図書）誌に掲載されたとき、私は衝撃を受けました。強い影響を受け、その後の私自身の「学級開き」がガラリと変化したことを覚えています。

2 出会いの「挨拶と話」はなぜ重要か

重要な点がいくつかあります。

例えば、向山氏が「最も大切なのは」と書いている点です。

この担任としての挨拶と話が「最も大

切」だと向山氏は言うのです。なぜでしょうか。

それは、この瞬間の教師が放つ「言葉」「ニュアンス」「表情」「オーラ」といった様々な情報を、クラスの全ての子供たちが注視しているからです。

ここでその教師の統率力、いわば「器」といったものがにじみ出るからです。

そう言われても、そうした「ムード」を言葉で伝え、分析することは容易ではありません。だからこそ、全く情報のなかった当時の私たちにとって、この「文字おこし」は非常に貴重な情報でした。

これを、現代の教室での視点も含めながら、一字一句、徹底的に分析していただきたいと願いました。長谷川氏、小嶋氏に担当していただきます。

その他、向山型の「しくみ」のつくり方から、子供たちに教えた大切な考え方までをしつかり学べる特集です。

(本誌編集長 谷和樹)

徹底解析

向山洋一の学級開始初日の指導の再現

分析と解説… 埼玉県古見町立古見中学校 長谷川博之

長野県長野市立通明小学校 小嶋 悠紀

1992年4月、初めて担任する子どもと出会いました。始業式が終了して校庭で10分間のあいさつ、持ち物の指示です。

翌日、2日目には担任の挨拶をして、クラスをつくり、授業を始めます。3日目から、もう普通の授業です。

この中で、最も大切なのは、2日目担任としての挨拶と話です。テープおこしをしてそのまま再現しました。

1 最初のことば

(担任がクラスの前で初めて話す場面を紹介します。まず明確な指示です)

向山「見ている教科書を閉じなさい。

これから、みんなとの生活がはじまりますから、いくつか言っておきたいことがあります。

いすをきちんと入れて下さい」

(指示を聞かない子を、名前を言っ
て軽く注意します)

向山「星君、カバンを下に置きなさい。

佐藤君、いすが入っていますか」

2 担任の自己紹介

向山「はじめは自己紹介をします。

『向山洋一』(板書) 東京で生まれて
東京で育ちました。もう少し言うと、

おとなりのすぐそばの旗の台で生まれ
育ちました。小学校は旗の台小学校、

中学校は荏原第五中学校、高校が東京
都立小山台高等学校、大学が東京学芸

大学、先生を何年かやりました。(中略)

去年までは6年1組の担任でした。

雪谷小に来て7年目かな。

去年、国吉さんのお兄ちゃんを教え

分析と解説

長谷川博之

本テープ起こしが公表されたのは、『教室ツウウェイ』(明治図書) 一九九三年四月号である。その「編集前記」で向山洋一氏は述べる。

□最初の三日間で、クラスを組織することです。それに全力をあげることです。

「組織する」とは、いやなひびきもありますが、それは理解が浅いからです。

教師の願い、子どもの願い、教師のロマン、子どもの夢、そうしたことを実現するため

のしくみ作りなのです。□

ここに書かれた以下の項目が、新学期二日目の「授業」ですべて取り上げられていることに読者は気付くだろう。

分析と解説

小嶋悠紀

「見ている教科書を閉じなさい」

この指示をする向山氏を想像してほしい。

向山氏の息づかい、目線、語気の強さを全ての想像力を使って想像する。

これが想像できなければ、この先の「組み立て」は、全て破綻する。

とにかくエネルギーを、覇気を込めて言っているはずだ。

この気迫で、注目を一気に教師に集めるのだ。

すると、その後の、「名前を読んで注意する」パーツが強烈に効いてくる。

このことにより、自己紹介パーツで静寂が訪れる。子供たちは息を飲んで向山氏の話

再現! 向山洋一の「学級づくり黄金の三日間」